



関西学院大学
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

古希前の学究が修士課程を修了
～日清製粉グループ本社前社長の村上一平さん～

報道各位

関西学院広報室

日ごろは、関西学院に格別のご高配を賜り、ありがとうございます。

今春、日清製粉グループ本社特別顧問の村上一平さん（69）が、関西学院大学大学院文学研究科博士課程前期課程（修士課程）文化歴史学専攻を修了します。

村上さんは日清製粉グループの社長退任後、第3の人生では母校関西学院で日本史の研究をしたいと半年間にわたる猛勉強の末、2012年4月に文学研究科に合格。大学院では日本の近現代史を専攻し、主に高度経済成長期における農業政策の変遷をテーマに研究を進めてきました。

修士論文では「高度経済成長期における農業政策の歴史的意義」というタイトルで、1950年代の日本農業の問題点とそれが逆に高度経済成長に果たした役割を検証。さらに、1960年代前半に農業基本法農政において想定されていた日本農業が日本経済の成長に伴い、どのように変化したのかについて研究しました。

村上さんは大学院生活を「研究はもちろん、それ以上に歴史を学ぶという意味について改めて考えることができたのは大きな収穫でした」と振り返り、4月からは「博士課程（後期課程）に進みたい」と夢を膨らませています。

村上さんは、1967年に経済学部を卒業後、日清製粉㈱に入社し、常務取締役などを経て2007年に現在の㈱日清製粉グループ本社代表取締役社長に就任。現在は同社特別顧問を務めています。

大学院修了式を前に、ぜひご取材いただきますようお願い申し上げます。

ご参考＜大学院修了式＞

■日時：3月17日（月）10時～

■場所：西宮上ヶ原キャンパス 高中部礼拝堂

※修了式前の取材は、3月11日に西宮上ヶ原キャンパスにて実施させて頂きたいと考えております。

以上

問い合わせは、関西学院広報室（0798-54-6017）までお願いします。